大分市歴史資料館
OITA CITY HISTORICAL MUSEUM
ニュース

vol. 112
2016.4.30

平成28年度テーマ展示Ⅰ

ハレの日の酒

大分市歴史資料館

会期:4月30日(土)～6月26日(日)

婚礼の盃(大分社所蔵)

平成28年度テーマ展示Ⅰ

ハレの日の酒

会期：4月30日(土)～6月26日(日)

成人の祝い、結婚、葬式、盆、正月、祭り、講、花見、遊山など日常生活と異なる特別な日を「ハレ」の日と言います。この日には、人々が集まって、日頃は口にしない餅や赤飯、無塩の魚などの御馳走を食べ、酒を酌み交わしました。

本テーマ展では、多様な酒造道具や、酒宴を彩った酒器、また版本や絵画資料なども交えながら、ハレの日のお酒について紹介します。

一、多様な酒造道具

古代の酒はどぶろくのように蒸米と米麹を甕で発酵させたものでした。現代のような日本酒、いわゆる清酒の製造法が確立されたのは戦国時代末頃といわれています。

清酒造りの製法は、古代の酒に比べて複雑化し、精米精白、洗米、蒸米、麹造り、酛造り、醸造、酒搾り、火入れ、貯蔵の一連の工程が必要とされます。また、その作業に合わせて、酒造道具も多様なものが生み出されました。桶だけでも水を量る試桶や洗米をするための踏桶、酛に蒸米・麹・水を加えて造る醪を仕込む大桶（六尺桶）など、大中小の様々な大きさのものを15種類以上も使い分けていました。

暖気樽

暖気樽は中にお湯を入れ、酛を仕込んでいる桶に投入して温めることで、酵母の繁殖を助ける役割をします。

酒造りに欠かせない酛は、蒸米・麹・水を混ぜ合わせて、攪拌を繰り返し、アルコール発酵に必要な酵母を大量に育てたものです。

大分市指定有形文化財
帆足本家酒造蔵 酒造用具

二、酒宴を彩る酒器

古代の酒宴は、神にお供えした酒を、祭りに集まった人々がいただく場でした。しかし時代が下がるにつれて上流階級の人々による私的な酒宴が催されるようになっていきます。「御神酒上がらぬ神は無し」という言葉はまさにそれをあらわしているようです。

酒宴の楽しみは、酒を飲み、料理を食べるだけでなく、酒を注ぐ器もその一つと考えられます。酒宴で使われた酒器は時代や身分によって様々です。さらに色や形・図柄などにも持ち主の趣味趣向があらわされます。

揃いの猪口と徳利、盃洗

江戸時代中期頃には、庶民に清酒が広まりました。熱燗も多くの人に飲まれるようになり、猪口や燗徳利が普及しました。盃洗は自分が使った猪口を、他の人に勧める際に洗い清めるための器です。

三、ハレの日の酒

民俗学では日常とは異なる特別な日のことをハレ(晴)といい、普段営んでいる生活のことをケ(褻)といいます。この「ハレとケ」の感覚は近代化が進むにつれて曖昧なものになってきました。それ以前の暮らしにおいてハレの日は普段の生活から解放されて、酒を飲み、羽目を外すことができる数少ない機会でもありました。

かつてハレの日には、仕事を休んで家族や集落の人々が総出で祭りや行事に参加していました。それを終えた後に、参加者が一堂に会して特別な御馳走をいただく、直会などの共同飲食の場は、今でも設けられています。祭りであれば御神酒が、結婚式であれば祝いの酒が振舞われ、葬式であれば故人を偲びながら酒が飲まれています。

そうしたハレの日に使用する道具には、普段使いとは違う特別な意匠をあしらった道具が使用されます。

大分社所蔵

婚礼の盃

神前結婚式で使用されるもので、縁起物の松竹梅の意匠があしらわれています。三三九度で知られる夫婦盃は最初に新郎が3口飲み、同じ盃で新婦が3口飲む、次の盃は新婦から新郎へ、最後の盃は新郎から新婦へというように行われます。

夫婦盃以外にも親子盃や兄弟盃、集落への仲間入り、講や若者組への加入など新しい関係を結ぶときには、約束を固める盃事が行われていました。

下横瀬の庚申講掛け軸

庚申講とは、2ヶ月に1度の庚申の日に集まって唱え言をし、「話は庚申の晩に」といわれるように雑談をしたり、酒を飲んだりして夜を明かした行事です。これは庚申の夜に、人の体内にいる「三尸の虫」が抜け出し、その人物が行った悪事を天帝に報告すると考えられていて、それを防ぐために行われたといわれています。

この掛け軸は実際に大分市下横瀬の庚申講で信仰されていたものです。描かれている人物は庚申の「申」にかけて猿田彦であると思われます。

ちなみに2016年は初庚申2月8日、二庚申4月8日、三庚申6月7日、四庚申8月6日、五庚申10月5日、納庚申12月4日となっています。

仏事用の膳椀

祝いの席だけでなく、葬式や法事の席もハレの日に含まれます。葬祭場での葬儀が一般化する以前は、自宅で葬儀を行っていました。

膳椀は講組などの共同組織で持つことが一般的でした。手前の左から親椀、汁椀、左奥から壷椀(オツボ)、平椀(オヒラ)、中央におてしょうが並べられます。

大分市のお斎では、煮物、酢のもの、たくあん、煮豆、白飯、豆腐の味噌汁が膳に並び、酒、餅、巻き寿司などが添えられました。

トピックス Topics

元祖色付け勾玉

資料館では平成14年度から導入された「総合的な学習の時間」を見越し、平成12年度から本格的な体験学習を開始しました。初年度の体験メニューは、火おこし体験と明るさ体験、農機具体験、勾玉作り(滑石製・土製)の5種類でしたが、現在では土偶作りやはにわ作り、かご編み、織物作り、和凧作り、折り紙雛作りなどのモノ作りを中心とした20種類近くの体験メニューを準備しています。

その中でも勾玉作りは1番人気の体験メニューです。当初勾玉作りは、自然の石を削って作る滑石製勾玉と、粘土で作った勾玉に絵の具で色付けたり、模様を描いたりする土製勾玉の2種類を行っていました。滑石製勾玉は、自然の石の色や自然な模様が楽しめるものの2・3個作ると満足してしまうという課題があり、一方で土製勾玉は、いろんな色が付けられるのは良いが、焼くのに時間がかかる。作るのが簡単すぎて、1度作れば満足などといった課題がありました。これらの課題を解決すべく考案したのが「色付け勾玉」です。当時から人気だった滑石製勾玉に、利用者の方からも「いろんな色があるといいなぁ～」といった声が多くあり、なんとか色を付けられないかと試行錯誤をくり返しました。絵の具でただ色を塗るだけでは、本来、滑石がもってる味がなくなってしまうことから、石に色を定着されることで、石がもっている自然な感じをそのまま活かせるようにと検討しました。また、利用者の多くが低学年や就学前のお子さんと一緒に来館することが多く、そうした利用者にとっての安全性も考慮して、食紅を定着させることで、赤・黄・緑の3色の色付けを行いました。その後、他の液を利用したり、調合することで上記に加えて黒・紫・青・黄緑・オレンジ・ピンクの全9色の勾玉が作れるようになりました。これにより利用者の数が増え、さらに9色の勾玉をすべてそろえると「勾玉名人認定証」をもらえるとあって、リピータの数も飛躍的に増えました。

この色付け勾玉も今年で17年目を迎え、改めて考えると平成12年の段階では、まだ他館でも色を付けた勾玉作り体験はなかったように思います。そこで「元祖色付け勾玉」を名のってみようと考えたしだいです。

元祖色付け勾玉(9色＋自然色)

インフォメーション Information

ふれあい歴史体験講座

定員 各回70名程度(先着順)

時間 午前の部　9時30分～(約2時間)
午後の部　14時00分～(約2時間)

	実施日	内容	材料費	受付開始日
第1回	4月23日(土)	勾玉作り	250円	4月3日(日)
第2回	5月21日(土)	粘土はにわ作り	230円	5月3日(火)
第3回	6月4日(土)	土笛作り	60円	5月17日(火)
第4回	6月18日(土)	紙かご編み	150円	6月3日(金)
第5回	7月2日(土)	七夕飾り作り	無料	6月17日(金)

応募 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館:097-549-0880)

昔のおもちゃで遊ぼう

内容 歴史資料館隣の広い史跡公園で、竹馬・竹とんぼ・竹弓矢・コマなどの昔のおもちゃで、思い切り遊びます。体験当日は、手押し式消防ポンプ体験を家族みんなで力を合わせて行います。

日時 5月5日(木)【こどもの日】
9時30分～16時(15時受付終了)

参加費 無　料　※事前の申し込みは必要ありません。

テーマ展示解説講座

内容 講座室でテーマ展示Ⅰ「ハレの日の酒」について、スライドなどで解説した後、展示会場を案内します。

日時 5月15日(日)　14時～15時30分

参加費 無　料　※事前の申し込みは必要ありません。

★ 上記の各講座等の参加者は観覧料が無料になります。

利用案内

■開館時間　9時から17時(入館は16時30分まで)
■休館日　月曜日　但し祝日の場合は開館
但し第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日
祝日の翌日　但し土・日曜の場合は開館
年末年始　12月28日～1月4日

■観覧料　大人200円(団体150円)　高校生100円(団体50円)
中学生以下　無料　※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。

■交通機関　・JR久大本線
豊後国分駅下車 徒歩2分
・大分自動車道
大分I.C・光吉I.Cよりともに約15分

発行日:平成28年4月30日
発　行:大分市歴史資料館　〒870-0864　大分市大字国分960-1　TEL097-549-0880　Fax097-549-5766
※大分市ホームページの「観光・魅力＞歴史・文化財＞歴史・文化を学ぶ＞大分市歴史資料館」も併せてご覧下さい。
(http://www.city.oita.oita.jp/)